

第1回青田廻り資料

令和元年6月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

～「R1（令和元年）JAなのはな米品質向上運動」実施中～ なのはな米1等比率95%以上を継続！

コシヒカリの生育は、概ね平年並みとなっています。ただし、5月12日以前の田植えでは、平年に比べ、葉齢の展開は早く、生育が旺盛となっています。

今後、分けつが急激に増える時期となります。遅れずに溝掘り・中干しを行い、茎や根を充実させ、同時に、無効分けつ（強勢な穂にならない、弱小な分けつ）の発生を抑えましょう。

《平年比較》

水稻の生育状況

5/12以前の田植え 草丈：やや長い 茎数：多い 葉齢：早い 葉色：やや濃い

コシヒカリの生育調査結果

なのはな農協管内生育基礎ほ（8カ所）6月3日調査平均

	田植日	草丈	株当り茎数	m ² 当り茎数	葉齢	葉色
R1平均	5月12日	29.3 cm	10.6本/株	209本/m ²	6.8	4.2
内5/12以前の田植え平均（5カ所）	5月10日	30.9 cm	11.7本/株	231本/m ²	7.4	4.3
平年	5月11日	28.4 cm	10.3本/株	195本/m ²	6.6	4.1

※平年 平成21～30年の平均値

1 溝掘り・中干し

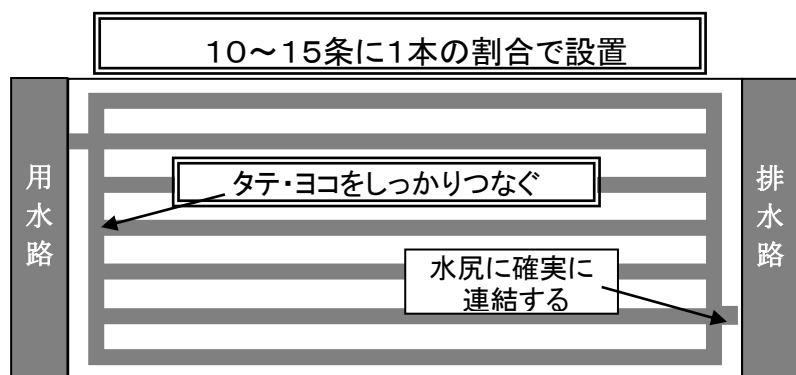
(1) 溝掘り

溝掘りは中干しと水管理のかなめです。

まだ溝掘りをしていない場合は、今すぐ実施しましょう。

溝掘りは、

- ・入排水の効率を高めます！
- ・ほ場の均平ムラによる生育ムラを是正します。



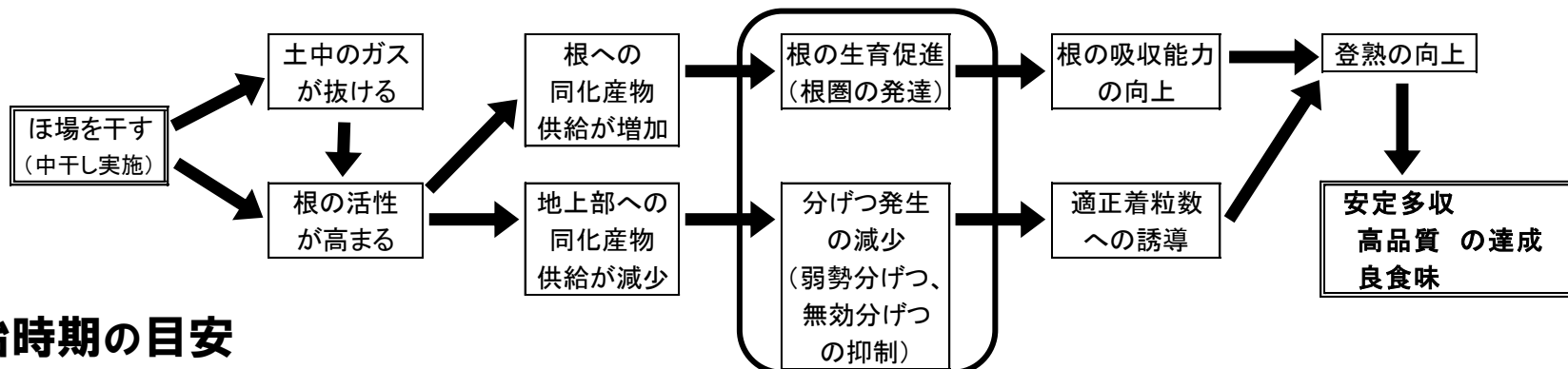
<溝掘りのポイント>

- ・形が崩れないよう軽く田干しを行い、泥を固めた後に溝を掘る。（乾きにくい所は、間隔を狭くする）
- ・溝と水尻は、確実に連結する。
- ・溝掘り後、中干しでしっかり固めて入排水を容易にする。

(2) 中干し

①効果

うわ根の発達を促し、無効分けつの発生を抑制します。収穫に必要な地耐力を確保します。



②開始時期の目安

有効な分けつは、田植え後1ヶ月までに発生します。その後発生する弱勢な分けつが残ると米品質低下につながります。生育に合わせて中干しを遅れずに開始しましょう。

① **移植** 田植え後1ヶ月までに（目標茎数の8割程度、7.5～8葉期）開始

② **直播** 1m間茎数が100本程度になったら開始

※開始時期が遅れると、梅雨の影響で十分に干せなくなる恐れがあります。

③中干しの程度

干し過ぎると逆に稲にダメージを与えます。数回に分けて、ほ場中央部でくるぶしが軽く沈む程度を目安に田干ししましょう。

2 中干し後の水管理

(1) 中干し後から幼穂形成期までの水管理

中干し後は、**間断かん水**で根に水分と空気を十分補給し、うわ根の生長を促進しましょう。

あわせて湛水管理後の収穫期に十分な地耐力を確保しましょう。

<間断かん水の目安>

- ◆ 乾きやすい水田 1日程度湛水、その後2～3日程度落水
- ◆ 乾きにくい水田 1日程度湛水、その後3～4日程度落水

※**ため水は厳禁**！うわ根が発達しません。

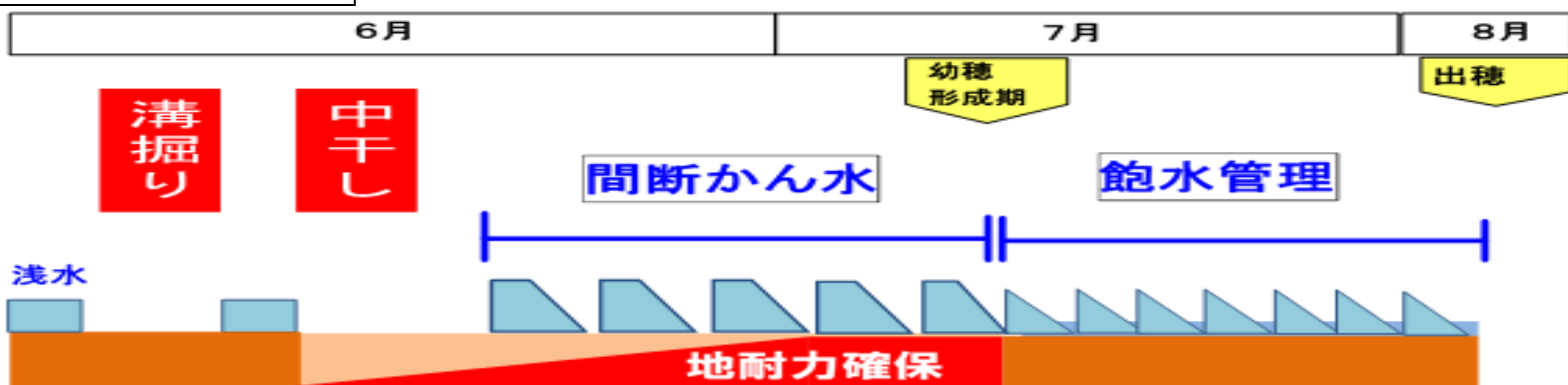


(2) 幼穂形成期から出穂期までの水管理

幼穂形成期から出穂期までは間断かん水の落水期間を短くし足跡に水が残る程度の

飽水管理で、水分補給しながら土の硬さを維持しましょう。

水管理のイメージ (コシヒカリ)



3 ケイ酸質資材の施用

特に肥効調節型基肥は、リン酸やカリの成分が少な目になっています。これらの成分や登熟向上に必要なケイ酸を補うため、**エスアイ加里**らくだまたは**BBPKケイ酸**等を必ず**施用**しましょう。

施肥体系 (使用基肥肥料)		肥料名	10a 当たり施用量	施用時期
分施	(なのはな有機基肥)	エスアイ加里らくだ	1.5 kg	6月中旬～下旬
	(基肥555)	太陽のめぐみ	2.0～4.0 kg	
肥効調節型基肥	(なのはな一発基肥など)	エスアイ加里らくだ	1.5 kg	
		BBPKケイ酸	2.0～4.0 kg	

4 雑草防除 (除草剤散布)

- ・ 雑草が残った場合、下表を参考に除草剤を遅れずに散布しましょう。
- ・ 散布前に軽い田干しや水の入れ替えを行ってから散布しましょう。

雑草の状況	除草剤名	散布量 10aあたり	散布時期 (移植)	使用回数	使用上の注意
ノビエが残った場合	クリンチャー 1キロ粒剤	1.5 kg	田植後25日～ ノビエ5葉期まで (収穫30日前まで)	2回 以内	・ 散布の際は5cm程度の深水とする。 ・ 散布後5日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流しをしない
広葉雑草が残った場合	バサグラン粒剤	3～4 kg	田植後15～50日 (収穫60日前まで)	1回	・ 落水して雑草を露出させ、晴天日を選んで散布する ・ 散布後3～4日間は田に水を入れず、また降雨によって薬剤が流出しないよう水尻は必ず止めておく
ノビエと 広葉雑草 が残った 場合	ワイドアタックD 1キロ粒剤	1 kg	田植後20日～ ノビエ5葉期まで (稲4葉期以降) (収穫60日前まで)	1回	・ 散布後5日間は湛水状態を保ち、田面を露出させない ・ 完全に枯死するまでに3週間以上を要することがある
	クリンチャー パスME液剤	1,000ml 希釈水量 70～100L	田植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	2回 以内	・ 落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する。 ・ 散布後3～4日は入水や落水をしない

○斑点米の発生防止のため、カメムシ類の発生源となる**畦畔や水田周辺の雑草地の草刈り**を徹底しましょう。

草刈り運動実施期間 7月1～10日 (一斉草刈り日 7月6～7日)